

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金は平等で尊い』

町田市立南中学校 3学年 永山 莉捺

税金といえば負担が大きい、いろいろな場面で発生する厄介なもの、詳しくは知らないけれど大変なもの、などマイナスなイメージを持つ人が多いかもしれません。私も税金の仕組みをあまり理解しておらず、深く考えたことがありませんでした。ただ今回調べてみて、税金の受益と負担の割合が大切になってくるのではないかと、という考えに至りました。

税金による受益は全国民が受けられる警察や医療などの公共サービス、公共交通機関などのことです。また高齢者の方の年金補助なども税金によるものです。ここで、道路や警察、医療機関などは日常的に利用しているため税金による受益だと気づきづらい、という問題が発生します。一方で年金補助などは、はっきりと目に見えて受け取ることができ、そこばかりに目が行きがちです。その結果、税金を納める労働者世代の人々の「負担ばかりが大きい」という見方に繋がり、納税へのマイナスイメージが大きくなっています。これを改善するためには、国民が税金の受益を日常的に受けている自覚を持つことが必要です。そこで義務教育中の税金教育を活発にすれば良いのでは、と考えました。税金が自分たちの生活基盤になっ

ていることを知れば、納税への抵抗が減ると思ったからです。また納税へのイメージを変えるためには、税金の使い道のさらなる明確化が必要だと考えました。納めた税金で人の役に立ったことがしっかりと納税者に伝わる仕組みがあったら良いと思います。そうすることで快く納税できると考えました。

実際に労働者世代の負担率は世界と比べると高い方ではありません。けれど負担感が大きいのは先程の年金を筆頭とした社会保障の保険料が上がり続けていることが原因として考えられます。また、その要因として少子高齢化が挙げられます。高齢者数の増加に伴う労働者数の減少により一人が担う負担が大きくなってしまっているという現状があります。

今を快適に過ごし、より良い未来を作るために税金は必要不可欠です。税金に関するイメージを変え、納めることが国や人々の助けになっていることを納税者が身近に感じられるようになってほしいです。実際に困っている人のもとへ行くことはできないので、納めた税金によって誰かの助けになれていたら、そう考え納税することで日本は良くなっていくと思います。また、お互いが受益者であり負担者であることを自覚し、支え合えたら良いと思います。

私が大人になったとき、今よりもっと充実し明るい日本であってほしいです。そのために今からできることを考え、実行していきます。